



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「教養の森」科目群【科目群6】」  
シラバスの詳細は以下となります。



|                   |   |      |    |
|-------------------|---|------|----|
| 科目名               | 企業の仕組み  |      |    |
| 担当教員              | 竹林 明  |      |    |
| 対象学年              |   | クラス  |    |
| 講義室               |   | 開講学期 | 前期 |
| 曜日・時限             | 水 4   | 単位数  |    |
| 授業形態              | 講義  | 単位数  | 2  |
| 準備事項              |   |      |    |
| 備考                | 教育学部・システム工学部・観光学部・全学年   |      |    |
| 科目名 (英語表記)        | The Structure of Firms  |      |    |
| 授業のねらい・概要・科目の位置付け | <p>皆さんの多くが卒業後何らかの企業(会社、官庁、学校法人など)に属することになると思います。その仕組みを理解します。同時に、一般的な社会常識として大学生として企業について当然知っておくべき知識を獲得します。また、聴取したことをメモに落とし要点をまとめる能力をつける事を求めます。座って聴くだけ、黒板を写すだけでは何も得るものがない講義と考えておいて下さい。</p> <p>なお、「経営学」が「企業や組織」を「科学としての理解」する入門科目であるのに対して、本講義は実際の企業がどのように動いているかという「事象」を中心に説明します。</p>  |      |    |
| 授業計画              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに-一本講義の意図と受講の意義について</li> <li>2.企業と会社</li> <li>3.起業に必要な事項。</li> <li>4.企業の存在意義。</li> <li>5.さまざまな企業形態。</li> <li>6.事業の選択と競争。</li> <li>7.企業全体の成長を考える。</li> <li>8.事業の取捨選択の基準とは。</li> <li>9.製品・サービスを商品として市場に提供する。</li> <li>10.継続的に商品を購入してもらうには。</li> <li>11.ヒトのマネジメント</li> <li>12.モノのマネジメント</li> <li>13.カネのマネジメント</li> <li>14.企業分析の考え方</li> <li>15.おわりに-まとめと到達度試験</li> </ol> |      |    |
| 到達目標              | <p>企業経営の実際的な流れの基本的知識を習得する。</p> <p>具体的には、日本経済新聞の企業動向に関する記事の概要を理解できる程度。</p> <p>また、「経営学検定試験 初級テキスト」を独学できる程度。</p>   |      |    |
| 成績評価方法            | 最終講義にて実施する到達度試験によって評価する。  |      |    |
| 教科書               | 特に指定しない。  |      |    |
| 参考書               | <p>上林憲雄他『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣、2007年。</p> <p>小田章編『経営学への旅立ち』八千代出版、2001年。</p>   |      |    |
| 履修上の注意・メッセージ      | <p>出席しノートするだけでは意味がありません。自ら調べ、理解を深める努力をすることを強く求めます。また一定の課題について受講生間で議論をしていただきます。したがって、事前に課題に取り組むことが求められます。</p> <p>資料等の配布もしません。話を聴き、要点のメモを取り「自分なりにまとめる」能力も同時に鍛えて下さい。</p> <p>◆私語、内職、遅刻、途中出退場、その他、受講生への迷惑行為は一切認めません。これらの行為のあった受講生についてはそれ以降の受講を認めません。</p>   |      |    |

